

第14回“美しき桜心の物語”の語り会を開催しました



青梅市吉川英治記念館にて

2023年3月25日（土）、願いごとを携えて巡る「多摩川夢の桜街道～桜の札所・八十八カ所」のメイン事業である第14回“美しき桜心の物語”の語り会が、青梅市吉川英治記念館（東京都青梅市柚木町）の母屋にて開催されました。これは、名作・名文の全文を暗誦する語り部・かたりすとの平野啓子さん（元NHKキャスター、大阪芸術大学教授）が、毎年春、美しい多摩川フォーラムの副会長として、「多摩川夢の桜街道～桜の札所・八十八カ所」のいずれかの札所またはその周辺で、「桜と人との不思議な縁（えにし）」の語りをお届けするものです。新型コロナウイルス感染症の影響で4年ぶりとなる今年の語り会は、青梅市および青梅市教育委員会の後援のもと開催されました。

3月1日（水）に電話で受付を開始したところ、主に「広報おうめ」をご覧になった青梅市民の方から沢山のお申し込みをいただき、翌日朝には定員になるほど、今回も人気の高いイベントとなりました。

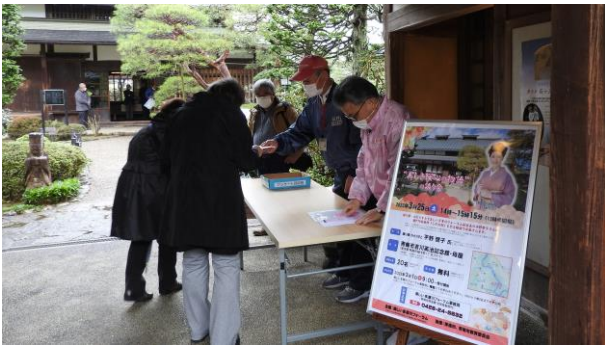
イベント当日は、朝から冷たい雨が降り注いでいましたが、青梅市内のソメイヨシノはちょうど満開を迎え、まるでイベントを盛り上げるかのように咲き誇っていました。受付開始の午後1時半になると、悪天候にも関わらず、青梅市内や八王子市在住の方が続々と訪れ、会場に用意した椅子席28席はあっという間に埋まりました。



朝9時の青梅市吉川英治記念館。
しとしと冷たい雨が降っていました。



青梅市内のソメイヨシノはちょうど
満開を迎えた頃でした。



午後1時半。事前にご予約いただいた参加者が次々とお越しになりました。



イベント会場の母屋には、参加者が今か今かと平野さんの登場を待っていました。

午後2時。当フォーラム細野会長による開会挨拶の後、平岡副会長（青梅信用金庫理事長）および澤田アドバイザーを紹介し、いよいよ「語り」が厳かに始まりました。

爽やかな青空色の着物に身を包んだ平野啓子さんが、「チリーン、チリーン・・・」という鈴の音に導かれるように会場の袖から登場し、舞台上に登壇しました。参加された皆さんは、平野さんの艶めいた美しい声に誘われ、瀬戸内寂聴作「しだれ桜」の「語り」の世界に引き込まれていきました。そして、平野さんの抑揚ある「語り」や雅びな仕草、凝った照明や音響、珠玉の言葉でたたみかけられる桜の描写に魅了され、客席はうっとりとして聴き入っていました。



細野会長より開会の挨拶がありました。



「チリーン、チリーン・・・」という鈴の音と共に登場する平野啓子さん。



瀬戸内寂聴作「しだれ桜」を、約40分にわたって全文暗誦で披露。抑揚のある美しい声、場面ごとに切り替わる照明や効果音など、会場は平野さんの「語り」の世界にぐんぐん引き込まれていきました。

「しだれ桜」上演後は、締め切っていた障子を一部開放し、雨にしっかりと濡れる庭を愛でながら、吉川英治にまつわる楽しいトークや、吉川英治の代表作である「宮本武蔵」から「巖流島の戦い」の部分を朗読でたっぷりと披露しました。その後も桜にまつわる縁など、桜づくしとなった語り会に、会場は終始和やかな雰囲気にも包まれました。



「語り」の後のトークでは、吉川英治作品との出会いや「語り」の世界に入ったきっかけなどが紹介され、吉川英治の代表作「宮本武蔵」から「巖流島の戦い」が朗読で披露されました。

「語り会」終了後、参加された方から、「素晴らしい語りで感動した。」「物語が頭の中で想像できるくらい引き込まれた。」「まるで映画か演劇を観ているようだった。」「言葉や語りの力を感じた。」「また開催してほしい。」などと、絶賛する声が多数寄せられました。

当フォーラムでは、今後も、多摩川流域に点在する桜の名所を八十八ヵ所選定した「多摩川夢の桜街道」のPRに努め、「願いごとを携えて巡る桜の楽しみ方」を皆さんに広めてまいります。

来年の春も、「多摩川夢の桜街道」の桜の語り会をお楽しみに！

